

追加型投信 / 国内 / 株式

三菱UFJ 日本株オープン「35」

ファンド情報提供資料
データ基準日: 2022年9月30日

当ファンドの運用状況と今後の運用方針等

平素は「三菱UFJ 日本株オープン「35」」をご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。
本資料では、当ファンドの運用状況および今後の運用方針等についてご説明いたします。

当ファンドの設定来の運用状況

- 当ファンドは、主に中長期的な事業の収益性・成長性が見込まれ、かつ十分な投資成果が期待できると判断し選別した「35銘柄」に投資することで、ベンチマークである東証株価指数(TOPIX)を上回る投資成果をめざしています。設定来の当ファンドの年間騰落率をみると、TOPIXを上回った年は24回中15回(63%)でした。また、当ファンドは投資成果を積み上げ、基準価額(分配金再投資)は設定時の約2.7倍に成長しています。
- 2022年を含む直近10年間の年間騰落率をみると、10回中7回についてTOPIXを上回りました。また、基準価額(分配金再投資)はコロナ・ショック(2020年3月)後に大きく上昇しました。

当ファンドのパフォーマンス(上段)と年間騰落率(下段)



・東証株価指数(TOPIX)は当ファンドのベンチマークです。・パフォーマンス: 基準価額(分配金再投資)は、1万口当たりであり、運用管理費用(信託報酬)控除後の値です。信託報酬率は、後記の「ファンドの費用」に記載しています。基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。・年間騰落率: 1999年は3月23日(設定日前営業日)~12月末の値を使用しており、10,000を起点としています。2022年は、9月末までの値です。当ファンドの騰落率と実際の投資者利回りとは異なります。

運用担当者からのごあいさつ

日本経済の強みの一つは、ものづくりにあると、企業の説明会や面談を通じてあらためて感じています。当ファンドでは、日本経済を支える「ものづくり企業」を多く保有しています。具体的な事例を挙げると、自動車の電動化を縁の下で支える山一電機や、スミダコーポレーション、富士電機などで、これらは伝統を有しつつ再成長期にある企業と考えています。マクロ経済、産業界のサイクルを見極めつつ考えていることは、今後のステージにおいて「ものづくり企業」の成長・再成長が国内株式市場を底上げするであろうということです。引き続き、ボトムアップリサーチに注力して、当ファンドのパフォーマンスの向上に努めて参ります。(2022年9月30日時点)



・上記銘柄は一例を記載したものであり、個別銘柄の推奨を目的とするものではなく、当ファンドにおいて上記の銘柄を組み入れることを保証するものではありません。・当ファンドの運用担当者とその肩書は2022年9月30日時点のものであり、将来変更される場合があります。・市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合があります。

・上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。

三菱UFJ 日本株オープン「35」

過去半年間の市場環境と当ファンドの運用状況（2022年4月～2022年9月）

■市場環境(国内株式市場)

- ・ 当該期間のTOPIXは6%下落しました。
- ・ 2022年6月中旬までの国内株式市場は、ウクライナ情勢への警戒感がやや後退したことや、外国為替市場で円安米ドル高が進み投資家心理が改善したことなどから上昇する局面も見られましたが、世界的なインフレ進行と各国中央銀行の金融政策への警戒感、米金利の急騰や米国景気の先行きへの不透明感が台頭したことなどを受けて下落しました。
- ・ 6月下旬から8月中旬にかけては、商品市況が落ち着きを見せインフレへの過度な警戒感が一服したことや堅調な国内企業の決算などを背景に上昇しました。
- ・ 8月下旬から9月末にかけては、米国の金融政策への警戒感などから下落しました。

■当ファンドの運用状況

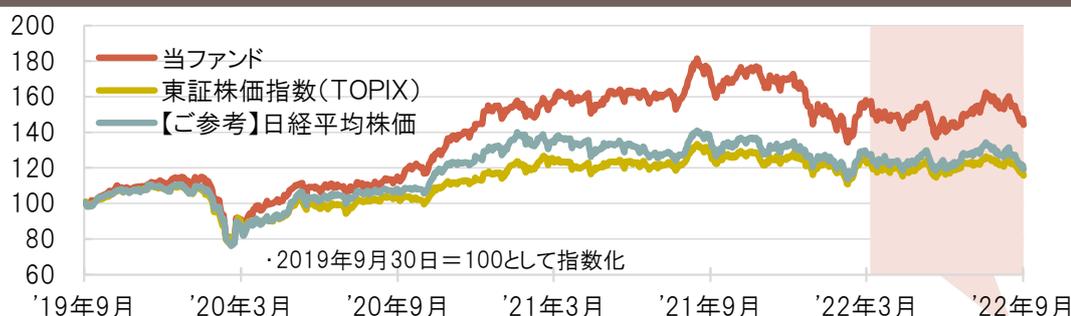
- ・ 当該期間の当ファンドの基準価額は8%下落しました。
- ・ 業種別では、電気機器や化学の組入比率をベンチマーク対比で高めていましたが、当ファンドの基準価額とベンチマーク対比の当ファンドのパフォーマンスの何れにもマイナスに影響しました。
- ・ 個別銘柄では、トレンドーズ(サービス業)や第一三共(医薬品)、そーせいグループ(医薬品)などがプラスに寄与した一方で、半導体需要の先行き懸念からトリケミカル研究所(化学)、米国の金融引き締め懸念からGMOペイメントゲートウェイ(情報・通信業)やセプテーニ・ホールディングス(サービス業)などのグロース(成長)銘柄がマイナスに影響しました。

＜主な投資行動＞

- ・ 高位で保有していた半導体関連の銘柄について、需要の先行き懸念から2022年4月末にかけてウェイトを引き下げました。
- ・ 2022年以降ウェイトを高めたITサービスなどのDX(デジタルトランスフォーメーション)関連銘柄は、業績が良好かつ大きな潮流と実感していたため、高位を維持しました。
- ・ 高齢化によりニーズが益々高まると予想される医薬品や医療機器関連銘柄については、経済の不透明感が高まる中で相対的な投資魅力が高まったと判断し、2022年4月以降ウェイトを引き上げました。

・ 上記は当ファンドの理解を深めていただくことを目的としており、個別銘柄の推奨を目的とするものではなく、当ファンドにおいて上記の銘柄を今後も組み入れることを保証するものではありません。業種は、東証33業種で分類しています。

直近3年間の当ファンドのパフォーマンス（期間：2019年9月30日～2022年9月30日）



半期毎の騰落率	2019/10-2020/3	2020/4-2020/9	2020/10-2021/3	2021/4-2021/9	2021/10-2022/3	2022/4-2022/9
当ファンド	-9%	25%	39%	8%	-8%	-8%
東証株価指数(TOPIX)	-12%	16%	20%	4%	-4%	-6%
【ご参考】日経平均株価	-13%	23%	26%	1%	-6%	-7%

・ 当ファンド：基準価額(分配金再投資)を使用。運用管理費用(信託報酬)控除後の値です。信託報酬率は、後記の「ファンドの費用」に記載しています。基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。当ファンド(分配金再投資)の騰落率と実際の投資者利回りは異なります。・ TOPIXは当ファンドのベンチマークです。日経平均株価は、当ファンドのベンチマークではありませんが、国内株式の値動きを説明するために表示しています。表示桁未満の数値がある場合、四捨五入しています。・ 上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。

三菱UFJ 日本株オープン「35」

今後の市場見通しと運用方針

■今後の市場見通し

- 国内外の株式市場は、マクロ経済の不確実要因により変動性の高い展開が続いています。ただし、その懸念要因も米国などの金融政策の効果により次第に沈静化していくと思われれます。一方、企業の決算においては、脱炭素社会をめざす様々な取り組みや、積極的なデジタル化投資などが、関連銘柄の業績に貢献し始めており、今後その好影響が高まっていくと考えています。インフレに対する懸念が落ち着いた後は、時代の構造転換を商機につなげる企業を牽引役に、株式市況全体も明るさを取り戻すと捉えています。
- 政策面でも、クリーンエネルギー戦略の具体化、行政のデジタル化推進などが中長期的な需要喚起、生産性改善などの効果をもたらすと期待されます。また、東証市場区分再編やESG投資の拡大などが、企業のガバナンスの高度化や収益率の改善を後押しし、その結果、企業の収益体質は着実に筋肉質になっていると捉えています。このように、企業を取り巻く環境の変化もあいまって、これまで欧米企業に対して見劣りしていた国内企業のROE(自己資本利益率、収益性をみる指標のひとつ)などの中長期的な改善が見込まれ、国内株式市場の堅調なパフォーマンスに繋がることを期待しています。

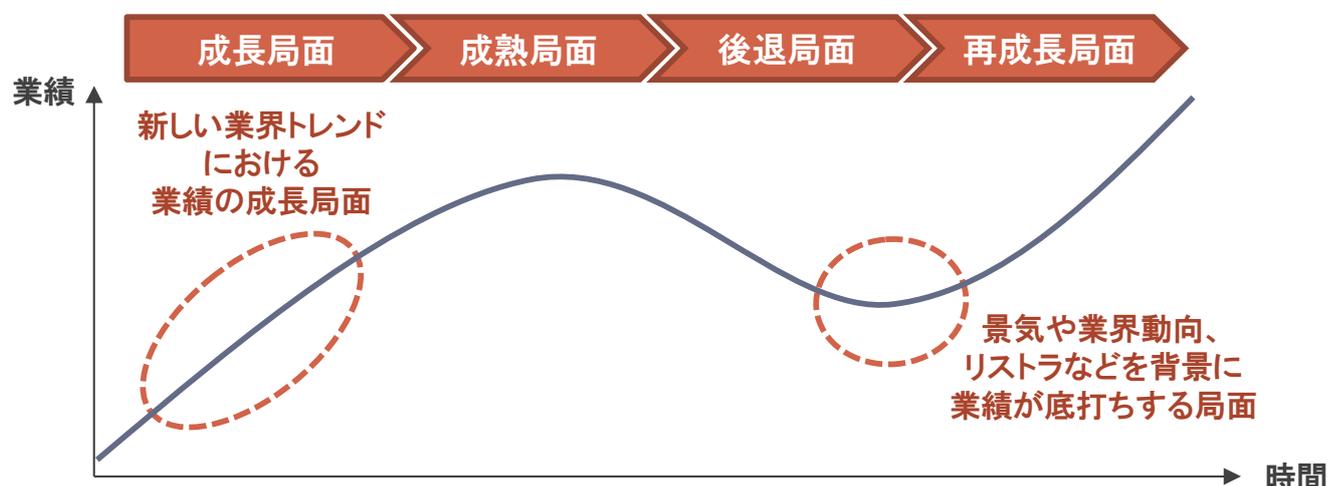
■今後の運用方針

- 市場環境が厳しいものの、運用哲学を再確認し、ファンドコンセプトに則った運用を継続しています。当ファンドの運用チームの運用哲学は、「利益を生み出す力と時代の風を見極める」こと、そして当ファンドのコンセプトは、企業の成長性(成長企業・再成長企業)に着目し厳選した銘柄に投資することです。
- 下図は、当ファンドが着目している、企業の成長・再成長の局面推移をイメージ化したものです。産業界において、好機は往々にして未だ分からない状況下や厳しい状況下で動き出します。運用チームでは、その変化の方向性を事前に見極め、成長企業・再成長企業を発掘するため、ボトムアップリサーチを継続しています。
- 当ファンドは、今まで産業サイクルを見極め銘柄を選択しポートフォリオを構築することで超過収益を積み上げてきました。目下も厳しい局面にありますが、好機を中長期的な視点で見据え、引き続き当ファンドのパフォーマンス向上をめざしてまいります。

・市況の変動等により、上記の運用方針通りの運用が行えない場合があります。

(2022年9月30日時点)

企業の成長・再成長の局面推移(イメージ図)



・上記は、イメージ図であり全てを網羅するものではありません。

・上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。

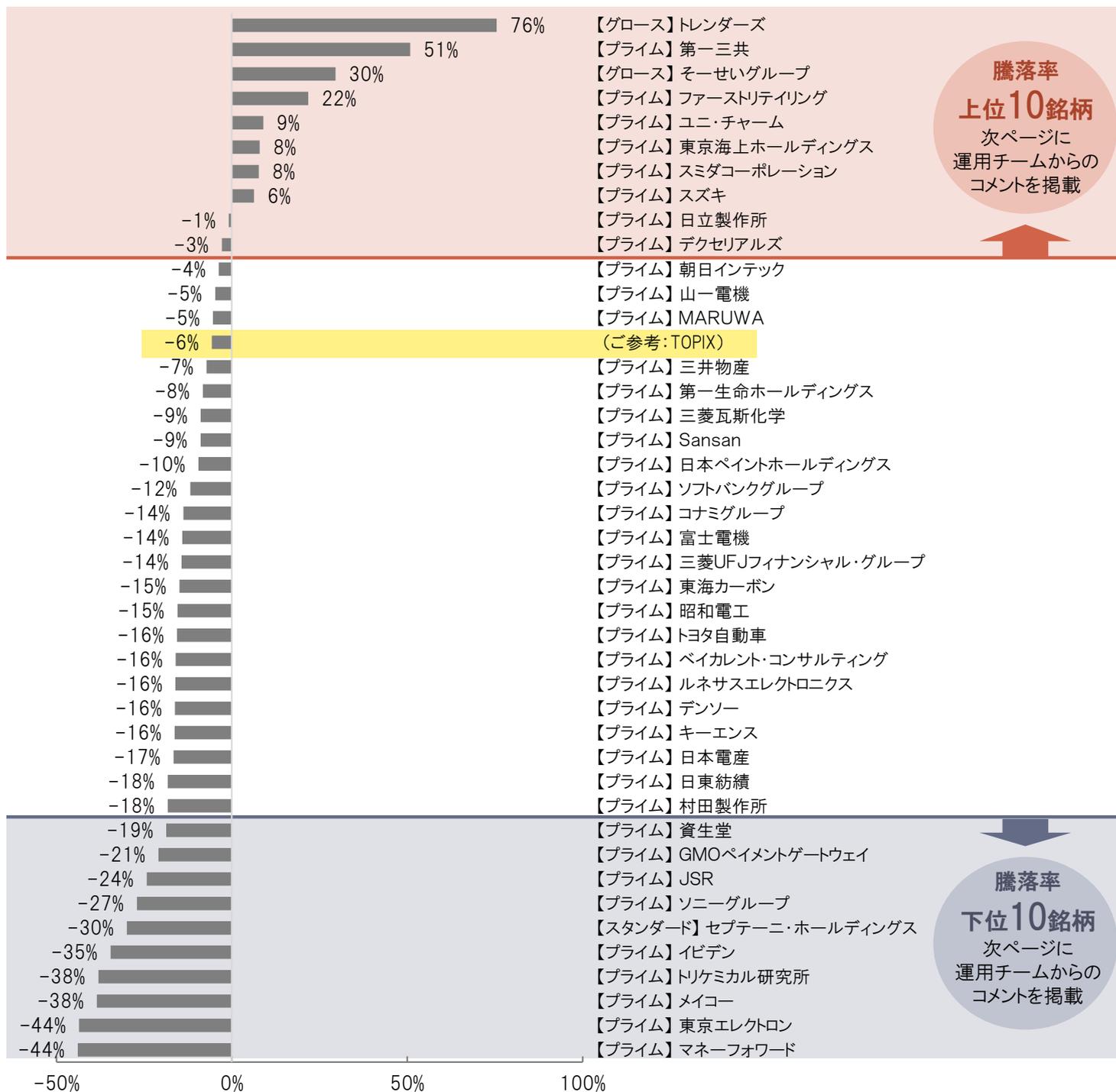
三菱UFJ 日本株オープン「35」

【ご参考】組入銘柄の騰落率(2022年3月31日～2022年9月30日)

当ファンドが組み入れている銘柄について、ご紹介いたします。

下記は、2022年9月30日時点における当ファンドの組入全銘柄(42銘柄)とTOPIXについて、直近半年間における株価の騰落率を算出し、降順に並べたものです。

※当ファンドにおける保有期間等を考慮したものではなく、当ファンドへの寄与度、運用成果とは異なります。



騰落率
上位10銘柄
次ページに
運用チームからの
コメントを掲載

騰落率
下位10銘柄
次ページに
運用チームからの
コメントを掲載

(出所)Bloombergのデータを基に三菱UFJ国際投信作成

・【プライム】【スタンダード】【グロース】は、それぞれ2022年9月30日時点で上場している市場を記載しています。・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入しています。・上記は当ファンドの理解を深めていただくために記載したものです。したがって、個別銘柄の推奨を目的とするものではなく、当ファンドにおいて上記の銘柄を今後も組み入れることを保証するものではありません。

・上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。

三菱UFJ 日本株オープン「35」

詳しく知りたい方へ：組入銘柄の概要は月報に掲載

当ファンドの月報には、前月末の組入銘柄一覧と銘柄の概要を開示していますので、あわせてご覧ください。月報は弊社HPでご覧いただけます。
(<https://www.am.mufj.jp/fund/119901.html>)

■ 騰落率上位10銘柄

銘柄名	運用チームからの銘柄紹介コメント(2022年9月30日時点)
トレンダーズ	SNSインフルエンサーマーケティングに強みを持つ企業。得意とする化粧品・食品などの企業がSNSを利用したプロモーションにシフトしていることなどを背景に、業績は好調に推移。
第一三共	2022年8月、同社は主力のがん治療薬「エンハーツ」について、乳がん患者の対象を広げる一部変更が米食品医薬品局(FDA)に承認されたと発表。投与対象患者が大きく拡大する可能性が具現化。
そーせいグループ	創業ベンチャー企業である同社は、2022年8月、研究開発型のバイオ医薬品企業であるアツヴィと新規創業提携およびライセンスのオプション契約を締結するなど、新薬開発が着実に進展。
ファーストリテイリング	2022年8月期の第1～3四半期の海外ユニクロ事業は、円安も追い風にアジア・オセアニア地区、北米、欧州(ロシアを除く)が大幅な増収増益となり、前年比約36%の営業増益を達成。
ユニ・チャーム	2022年12月期は原材料価格急騰により厳しい業績を余儀なくされる見込みだが、販売数量の増加継続に加えて、原価改善を伴う新製品の発売と値上げなどにより、来期の業績改善に期待。
東京海上ホールディングス	2022年3月期は大幅増益を達成し、不透明感の強い事業環境のもと、続く2023年3月期についても堅調な計画を示す。あわせて、2022年5月に自己株式取得を発表、9月に取得終了。
スミダコーポレーション	各種コイルならびに電子機器部品を製造する同社の収益は、2021年12月期第4四半期に底を打ち、足下改善傾向。EVなど自動車における電装化の進展などを背景に関連する製品の需要が拡大。
スズキ	同社は、インド乗用車市場でシェア50%以上をめざし、販売は順調に拡大。成長するインドSUV(Sport Utility Vehicle)セグメントで2車種投入し、シェア拡大を図る。
日立製作所	DX・GX(脱炭素社会の実現に向けたグリーントランスフォーメーション)を軸とする成長戦略を掲げる。2021年に買収した米システム開発会社のグローバルロジックを軸にITサービス事業が堅調に推移。世界的なエネルギー転換の加速により、2022年9月に完全子会社化を発表した日立エナジーへの受注も増加。
デクセリアルズ	旧ソニーケミカル。反射防止フィルム、光学弾性樹脂、精密接合用樹脂などの強みを有し、差異化製品と位置付ける電子材料が、スマートフォンや車載ディスプレイ向けなどに順調に拡大。

■ 騰落率下位10銘柄

銘柄名	運用チームからの銘柄紹介コメント(2022年9月30日時点)
資生堂	中国のロックダウンに加えて、国内化粧品需要の回復遅れなどの厳しい環境の中、機動的なコストマネジメントを継続推進。2022年下期に本格的エイジングケア「エリクシール」をリニューアル予定。
GMOペイメントゲートウェイ	米国金利上昇などに伴い同社も含めたグロース銘柄が軟調に推移する中、主に電子商取引(EC)事業者に向けたクレジットカードの決済処理サービスを展開する同社の2022年9月期第3四半期は、オンライン課金分野などにおけるEC市場の順調な成長に加え、対面でもサービス提供を拡大するなど決済代行事業が成長。
JSR	ハイテク業界を陰で支える同社は、3つの事業領域の一つである「ライフサイエンス事業」について稼働率を保守的に見直し、かつ根本的な修繕を実施することなどにより収益計画を下方修正、来期以降の成長に期待。
ソニーグループ	音楽、映画、ゲームでシナジーを生み出す体制を整備。短期的には自社制作以外のゲームソフトウェア販売減少などでセグメントの収益計画を下方修正。
セブテーニ・ホールディングス	主にネット広告事業を手がける同社の株価は、2022年2月に大きく上昇した反動もあり軟調に推移するも、主力のデジタルマーケティング事業は既存分野の成長に加え、電通グループとの協業推進、新規連結効果により第1～3四半期累計では増収増益。
イビデン	半導体の先行き不透明感はあるものの、データセンター向けを中心としたサーバー市場が堅調に推移し、全体として成長傾向で推移。
トクケミカル研究所	半導体の先行き不透明感はあるものの、最先端半導体向けを中心に引き続き旺盛な需要を享受し、第2四半期決算発表時に通期業績を上方修正。
メイコー	主力のプリント基板は中国のスマートフォン向けなどが短期的に伸び悩むものの、今後は車載向けのシェアアップによる企業価値の向上に期待。
東京エレクトロン	半導体の先行き不透明感はあるものの、家電、自動車、医療などあらゆる分野に半導体の用途が拡大することが見込まれ、半導体製造装置もその恩恵を享受すると予想。
マネーフォワード	会計ソフト、アプリなどを提供するソフトウェア開発会社。先行投資負担などから営業損失となり株価のマイナス要因となったが、バックオフィス向けの業務効率化クラウドソリューション「マネーフォワードクラウド」は新規ユーザーが順調に増加。インボイス制度導入に伴う需要増加にも期待。

(出所)各社HP、各種資料を基に三菱UFJ国際投信作成

・コメントは作成時点のものであり将来予告なく変更されることがあります。・上記は当ファンドの理解を深めいただくために記載したものです。したがって、個別銘柄の推奨を目的とするものではなく、当ファンドにおいて上記の銘柄を今後も組み入れることを保証するものではありません。

・上記は、過去の実績・状況または作成時点での見直し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。

三菱UFJ 日本株オープン「35」

【ご参考】想定する日経平均株価水準（2022年9月30日時点）

日経平均株価の2022年度の見通しは23,000円から29,000円を想定しています。

※ 日経平均株価は当ファンドのベンチマークまたは参考指数ではありません。

- ・ 前提は日経平均株価の予想PERで11倍～13倍、為替は135円～145円(1米ドル)としています。
- ・ 予想PERが13倍、145円(1米ドル)等の前提で日経平均株価は29,000円程度の水準を想定、予想PERが11倍、135円(1米ドル)等を前提とした場合では、日経平均株価は23,000円程度の水準を想定します。

為替・PER(株価収益率)水準からの日経平均株価予想 2022年度、円

(2022年9月30日時点)

	日経平均株価 予想水準			
	PER 11倍	PER 12倍	PER 13倍	PER 14倍
米ドル 130円 ユーロ 130円	22,300	24,300	26,300	28,400
米ドル 135円 ユーロ 135円	23,000	25,100	27,200	29,300
米ドル 140円 ユーロ 140円	23,800	25,900	28,100	30,200
米ドル 145円 ユーロ 145円	24,500	26,700	29,000	31,200
米ドル 150円 ユーロ 150円	25,300	27,600	29,900	32,100

・日経平均株価予想＝一株当たり純利益×PER(株価収益率) ・「一株当たり純利益」は運用チームの予想値

・上記は、運用チームの見解です。

・上記は、過去の実績・状況または作成時点での見直し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。



「Morningstar Award “Fund of the Year 2021”」

国内株式型 部門

優秀ファンド賞 受賞

おかげさまで、三菱UFJ 日本株オープン「35」が、
モーニングスターアワード「ファンドオブザイヤー2021」の優秀ファンド賞を受賞いたしました。

当賞は国内追加型株式投資信託を選考対象として独自の定量分析、定性分析に基づき、2021年において各部門別に総合的に優秀であるとモーニングスターが判断したものです。国内株式型 部門は、2021年12月末において当該部門に属するファンド897本の中から選考されました。Morningstar Award “Fund of the Year 2021”は過去の情報に基づくものであり、将来のパフォーマンスを保証するものではありません。また、モーニングスターが信頼できると判断したデータにより評価しましたが、その正確性、完全性等について保証するものではありません。著作権等の知的所有権その他一切の権利はモーニングスター株式会社並びにMorningstar, Inc. に帰属し、許可なく複製、転載、引用することを禁じます。

Rakuten 楽天証券

FUND
AWARD
2021

当ファンドは、第7回「楽天証券ファンドアワード」の国内株式部門 アクティブファンドにおいて
「最優秀ファンド」に選ばれました。

当賞は、楽天証券株式会社が主催するものです。

選定基準：国内株式部門（楽天証券分類が「国内株式」）のなかでスコアランクが高いファンド（一部除外あり）のうち、楽天証券で取り扱いのあるアクティブファンド上位3ファンドが優秀ファンドとして選出されます。評価期間は3年とし、スコアランクは以下の通り算出します。1) 2021年12月末時点の3年スコアの順位と、2) 2020年1月末から2021年12月末までの1年スコア（24期間）の平均順位を合算して総合順位となるスコアランクを付与。

その中から、楽天証券のお客様投票による決選投票が行われ、最優秀ファンドが選ばれます。

当該評価は過去の一定期間の実績を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

【本資料で使用している指数について】

■東証株価指数(TOPIX) ■日経平均株価

本資料中の指数等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。また、発行者および許諾者が指数等の正確性、完全性を保証するものではありません。各指数等に関する免責事項等については、委託会社のホームページ(<https://www.am.mufg.jp/other/disclaimer.html>)を合わせてご確認ください。

三菱UFJ 日本株オープン「35」

追加型投信／国内／株式

ファンドの目的・特色

■ファンドの目的

わが国の株式を実質的な主要投資対象とし、「企業の成長性」に着目して厳選した「35銘柄」に主に投資を行い、東証株価指数(TOPIX)を上回る投資成果をめざします。

■ファンドの特色

特色1 わが国の株式を主要投資対象とします。

特色2 「企業の成長性」に着目して厳選した「35銘柄」に主に投資します。

・「35銘柄」に絞り込んで投資することで、全産業に投資するよりも高いパフォーマンスをめざします。また、より綿密な情報分析と継続フォローの徹底を図ります。

特色3 銘柄選定は、個別企業訪問等を通じ分析するボトム・アップ・アプローチにより行います。

特色4 東証株価指数(TOPIX)をベンチマークとし、これを上回る投資成果をめざします。

■ファンドの仕組み

・運用は主に日本株オープン「35」マザーファンドへの投資を通じて、わが国の株式へ実質的に投資するファミリーファンド方式により行います。

■分配方針

- ・年1回の決算時(3月23日(休業日の場合は翌営業日))に分配を行います。
- ・分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。
- ・分配対象収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。また、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

投資リスク

■基準価額の変動要因

ファンドの基準価額は、組み入れている有価証券等の価格変動による影響を受けますが、これらの運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。

したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

投資信託は預貯金と異なります。

ファンドの基準価額の変動要因として、主に以下のリスクがあります。

価格変動 リスク	一般に、株式の価格は個々の企業の活動や業績、市場・経済の状況等を反映して変動するため、ファンドはその影響を受け組入株式の価格の下落は基準価額の下落要因となります。
信用 リスク	組入有価証券等の発行者や取引先等の経営・財務状況が悪化した場合またはそれが予想された場合もしくはこれらに関する外部評価の悪化があった場合等には、当該組入有価証券等の価格が下落することやその価値がなくなること、または利払い・償還金の支払いが滞ることがあります。
流動性 リスク	有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性の下での取引を行えない場合または取引が不可能となる場合、市場実勢から期待される価格より不利な価格での取引となる可能性があります。

■その他の留意点

- ・ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリングオフ)の適用はありません。
- ・ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受付が中止となる可能性、換金代金のお支払が遅延する可能性があります。

・収益分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益の水準を示すものではありません。収益分配は、計算期間に生じた収益を超えて行われる場合があります。

投資者の購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的な元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり率が小さかった場合も同様です。

収益分配金の支払いは、信託財産から行われます。したがって純資産総額の減少、基準価額の下落要因となります。

・ファンドは、ファミリーファンド方式により運用を行います。そのため、ファンドが投資対象とするマザーファンドを共有する他のペビーファンドの追加設定・解約によってマザーファンドに売買が生じた場合などには、ファンドの基準価額に影響する場合があります。

ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

三菱UFJ 日本株オープン「35」

追加型投信／国内／株式

手続・手数料等

■お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位／販売会社にご確認ください。
購入価額	購入申込受付日の基準価額 ※基準価額は1万口当たりで表示されます。基準価額は委託会社の照会先でご確認ください。
換金単位	販売会社が定める単位(ただし、1万口を上回らないものとします。)／販売会社にご確認ください。
換金価額	換金申込受付日の基準価額
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して4営業日目から販売会社においてお支払いします。
申込締切時間	原則として、午後3時まで販売会社が受付けたものを当日の申込分とします。
換金制限	ファンドの資金管理を円滑に行うため、大口の換金のお申込みに制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付の中止及び取消し	金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、およびすでに受付けた購入・換金のお申込みの受付を取消すことがあります。
信託期間	2024年3月22日まで(1999年3月24日設定)
繰上償還	受益権の口数が10億口を下回ることとなった場合等には、信託期間を繰上げて償還となることがあります。
決算日	毎年3月23日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	年1回の決算時に分配を行います。 販売会社との契約によっては、収益分配金の再投資が可能です。
課税関係	課税上は、株式投資信託として取扱われます。個人受益者については、収益分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の譲渡益に対して課税されます。NISA(少額投資非課税制度)およびジュニアNISA(未成年者少額投資非課税制度)の適用対象です。税法が改正された場合等には、変更となることがあります。くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

■ファンドの費用

お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料 購入価額に対して、**上限2.2%(税抜 2%)**(販売会社が定めます)
(購入される販売会社により異なります。くわしくは、販売会社にご確認ください。)

信託財産留保額 ありません。

お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用(信託報酬) 日々の純資産総額に対して、**年率1.65%(税抜 年率1.5%)**をかけた額

その他の費用・手数料 監査法人に支払われるファンドの監査費用・有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料・有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用・その他信託事務の処理にかかる諸費用等についてもファンドが負担します。
※上記の費用・手数料については、売買条件等により異なるため、あらかじめ金額または上限額等を記載することはできません。

※運用管理費用(信託報酬)および監査費用は、日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。毎計算期間の6ヵ月終了時、毎決算時または償還時にファンドから支払われます。

※上記の費用(手数料等)については、保有金額または保有期間等により異なるため、あらかじめ合計額等を記載することはできません。なお、ファンドが負担する費用(手数料等)の支払い実績は、交付運用報告書に開示されていますのでご参照ください。

本資料のご利用にあたっての注意事項等

●本資料は、三菱UFJ国際投信が作成した資料です。投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。●本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。●本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。●本資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。銀行等の登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の補償の対象ではありません。●投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。

●委託会社(ファンドの運用の指図等)

三菱UFJ国際投信株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号

加入協会: 一般社団法人 投資信託協会

一般社団法人 日本投資顧問業協会

<ホームページアドレス> <https://www.am.mufig.jp/>

<お客さま専用フリーダイヤル> 0120-151034

(受付時間 営業日の9:00~17:00)

●受託会社(ファンドの財産の保管・管理等)

三菱UFJ信託銀行株式会社

ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

販売会社情報一覧表

投資信託説明書(交付目論見書)のご請求は下記の販売会社まで

ファンド名称:三菱UFJ 日本株オープン「35」

商号	登録番号等	日本証券業協会	一般社団法人 日本投資顧問業協会	一般社団法人 金融先物取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品取引業協会
アイザワ証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第3283号	○	○		
いちよし証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第24号	○	○		
auカブコム証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第61号	○	○	○	○
株式会社SBI証券	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
株式会社新生銀行(委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券)	登録金融機関 関東財務局長(登金)第10号	○		○	
東海東京証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長(金商)第140号	○		○	○
株式会社三菱UFJ銀行(※)	登録金融機関 関東財務局長(登金)第5号	○		○	○
三菱UFJ信託銀行株式会社	登録金融機関 関東財務局長(登金)第33号	○	○	○	
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2336号	○	○	○	○
楽天証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○